

凡例 i

第一帖

源氏物語聞書 5 桐つほ 10

箒木 47

第二帖

空蟬 123 夕顔 136

若紫 183

第三帖

末摘花 233 紅葉賀 269

花宴 300

葵 320

第四帖

榊 371 花散里 420

須磨 425

明石 472

滯標 515

第五帖

蓬生 561

関屋 579

絵合 584

松風 613

薄雲 639

槿 666

※ 卷名は、注開始箇所を表記を基本としたが、巻名表記がない巻や通行と異なる巻名表記の場合、題簽の巻名表記を付した。

准批

相堂此門ヲ准トス醍醐天皇以下見河海抄貴聖代之故也其  
最初や先師氏雖准西宮九府高トク公西而西又周公且東征  
管家之中トク沈淪トク亦比之トク不摸トク一様周捨トク隨宜トク  
先君密通世師亦事准之羽林好色粗トク相似乎  
此の語は

古來稱羨

古人各石可説く順徳院日記に見非古之我國之至宝源  
氏相法トク之トク乃トクはトク少トクりトク一トク一トク東家トク之トク閑談トク之トク脱別トク託トク之

此の語は准批後成トク之トク源氏トク首書トク之トク案式トク教トク後トク一トク後トク倫子トク家トク女トク房トク越トク  
此の語は前守トク奉トク時トク女トク母トク常トク陸トク介トク有トク奉トク儀トク女トク作トク源トク氏トク相トク法トク中トク案トク卷トク

仍トク是トク以トク來トク 弄 或流トク之トク一トク作トク意トク此トク天トク地トク四トク諦トクノトク法トク門トクトク

△桐つ小 此の語は卷右相堂東衣トク衣トク之トク五トク余トク之トク教トク景トク余トク之トクケトクイトクサトク子トクノトク時トクハトクカトクク

凡五十四帖の巻トクれトク者トク之トク口トクれトク今トク之トク一トク乃トクはトク須トクをトクとトクりトク二トク乃トクはトクをトクとトクり  
此の語はとトクこトク同トクとトク方トク上トク凡トク二トク之トクとトクりトクてトクふトク方トクけトクしトク須トクをトクとトクりトクまトクとトクとトクりトク  
此の語は之トク教トク四トク諦トク之トク法トク門トクトク 有トク門トク二トク乃トクはトク空トク門トクトク 有トク亦トク空トク門トクトク 非トク有トク  
此の語は非トク空トク門トクトク 二トク乃トクはトク切トク言トク教トクトク 四トク諦トクトク 是トク乃トクはトク故トク四トク諦トク介トク別トク之トク法トク性トク  
此の語はトク 是トク乃トクはトク故トク四トク諦トク介トク別トク之トク法トク性トクトク 是トク乃トクはトク故トク四トク諦トク介トク別トク之トク法トク性トク  
此の語は後トク師トクをトクとトクりトクてトク付トクるトク乃トクはトク源トク氏トクのトク表トク施トクをトクとトクりトク十二トク乃トクはトク此トクのトク法トク  
此の語は卷トクニトクみトクえトクりトク

いれとの正時より 此の教の語は甚深にしてわきまを  
含めり先作名をわきまをわきまをわきまをわきまを  
物よふとわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを  
らわれれば傍人の難をわきまをわきまをわきまをわきまを  
ある人多しりわきまをわきまをわきまをわきまをわきまを